



人乃天(人乃天)と神人調化(神人調化)

Innaecheon and Sinin-johwa

目次

- 1 人乃天(人乃天)思想とその意義
東学思想の核心概念と歴史的文脈
- 2 大巡思想の神人調化(神人調化)
神と人間の関係に対する大巡思想の観点
- 3 両思想の哲学的比較
人乃天と神人調和の思想的差異と共通点
- 4 三界観と人間観
天地人(天地人)への観点と人間の位置
- 5 結論および示唆
両思想の現代的意味と含意



人乃天(人乃天)思想とその意義

人が即ち天である

初期東学に発源した概念であり、人間の内在的価値と神聖性を強調する思想である。天道教において水雲の思想を解釈し、東学近代性を代表する概念として発展した。

水雲が直接表現したのではないが、内有神霊(内有神霊)、外有気化(外有氣化)という東学思想の天人・地人関係のうち内在的側面を極大化した概念である。

歴史的脈絡

伝統社会においては「天子(天子)」のみが天と繋がる存在であったが、人乃天思想は、あらゆる人が天と同等の尊厳性を持ちうるという革命的観点を提示した。

平等思想の先駆的表現

- 身分超越の平等白丁(白丁)のような賤民も天と同等の存在になりうるという観点で、伝統的身分制度に挑戦した。
- 性別平等女性も天として尊重されうるという思想は、家父長社会において進歩的観点であった。
- 年齢平等子どもも天として尊重されるという概念は、伝統的な年齢位階秩序に挑戦した。
- 近代的含意西歐的近代性に符合する概念として、あらゆる人間の平等な尊厳性を強調する。

限界および大巡思想の

観点
大巡思想では、人乃天思想のみでは平等な世を成し遂げがたいと見た。真の平等は変革よりも天地への報恩と解冤(解冤)を通じて漸進的に実現されるという観点を提示する。

「天子(天子)のみが天になりえた前近代社会において、神明世界を除いた人間世界における平等を主張することのできる思想としては極めて先進的な思想であった。」

大巡思想の神人調化(神人調化)

神と人間の調和

神人調化(神人調化)は調和(調和)の「調」と造化(造化)の「化」を結合した大巡思想固有の概念で、神明と人間の調和的關係を重視する。

大巡思想において人間は天と同等の存在にはなりえず、天地の恩恵を認識しそれと調和をなさなければならない。「事之當旺在於天地必不在人」(事の成功は天地にあり必然的に人にはない)

神人依導(神人依導)

人間が天になるのではなく、神と人間が互いに依り引導する關係を通じて調和的世界を実現する思想である。これは人乃天とは異なる大巡思想の人間觀である。

神と人間の關係

- 天地の恩恵大巡思想は天地の恩恵を忘却した人間と近代性を問題の原因として指摘し、天地を尊重すべきことを強調する。
- 三界觀天界・地界・人界で構成される三界(三界)において、神明と人間の調和的關係を通じて新たな天地運行がなされる。
- 解冤と相生平等な世は変革ではなく解冤(解冤)と相生(相生)を通じて漸進的に実現されると見る。
- 神明の役割大巡思想において神明は「真理に至極な」存在として、天地公事(天地公事)に共に参与する。

東学思想との差異

東学が人間の内在的側面を極大化したのに対し、大巡思想は人間と神明との相互作用と調和を強調する。人間が天になるのではなく、天・地・人間がそれぞれの役割の中で調和をなすべきであると主張する。

「神人調化は天地の恩恵を知り神明と調和をなす生を通じて、真の平等と調和的世界を実現する道である。」

人乃天vs神人調和哲学的比較

人乃天(人乃天)

東学思想の核心-人が即ち天

- 人間の尊厳と平等の強調
- 内在的側面の極大化(内有神靈概念)
- 人間中心的世界観
- 変革的アプローチ

神人調化(神人調化)

大巡思想の核心-神と人間の調和

- 神明と人間の調和ある関係の強調
- 天地の恩恵に対する報恩と解冤
- 三界(天・地・人)の統合的視野
- 漸進的成長と調和の方式

哲学的観点の比較

天と人間の関係	人間が天と対等な存在となりうる	人間は天地と異なり、相互に調和を成さなければならない
平等実現の方式	革命的変化を通じた即時的実現の志向	解冤と相生を通じた漸進的实现
三界観	神明界への言及が少ない、人間界中心	天界・地界・人界の相互作用の強調

現代の意義